

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4090800089		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 土井 (はなみずき・花梨)		
所在地	〒813-0036 福岡県福岡市東区若宮1丁目27番24号 Tel092-674-1551		
自己評価作成日	平成31年01月25日	評価結果確定日	平成31年02月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成31年02月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日常生活をおくる場であり日々の衣・食・住を通して季節感やその時々々の雰囲気を感じて頂けるよう支援しています。一汁三菜を中心とした食事を提供しておりお客様との会話のなかから好みのものや久しぶりに食べてみたいなどの声を反映しながら献立に取り入れています。地域の行事にも参加させて頂き地域の一員として共助の関係を築いていきたいと考えています。ご利用者が安心して生活できるよう医療機関との連携を図り日々の生活を見守り、ご家族には毎月通信紙にて日々の様子をお伝えしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

公民館や小学校にほど近い住宅街の馴染みの地域の中で、馴染みの生活の支援を目指して開設したグループホームである。玄関周りには季節の花の寄せ植えやプランターに球根を植えて、来訪者を心地よく迎えている。管理者は、職員が働きやすいようサポートに徹し、利用者一人ひとりの心に寄り添う温もりのある支援を目指し、チーム介護で取り組んでいる。ホームドクターの往診や訪問看護師との連携で24時間安心の医療体制が整い、看取支援に取り組んでいる。利用者の重度化や職員不足の中でも手作りの食事にこだわり、利用者の好みを聴いて職員が交代で調理し、それぞれの利用者に合わせた形態で提供し、その方のペースで食事して食欲増進に繋げ、健康管理は充実して長い入居年数に繋がり、家族から大きな信頼を得ている「ニチイケアセンター 土井」である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目にするところには掲示しているものの新しく入ったスタッフも多くその理念の共有にまでは至っておらず実践につなげているとはいえない。全体会議やケア会議の場において周知していきたい。	法人理念を見やすい場所に掲示し、理念の共有に努め職員は、常に意識して利用者本位の介護サービスの提供に取り組んでいる。利用者に声をかけて反応を見ながら振り返ることで、利用者一人ひとりの心に寄り添い、理念にある、「温もりのある支援」が実践出来るように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や活動にも参加させて頂き地域の方との交流を続け、そういった場に声をかけて頂けるようアンテナを張っていく必要がある。	「地域に根ざした福祉・医療を創る会運営会議」を近隣の事業所と協力して6年前に立ち上げ、介護相談事業に取り組み、地域への啓発活動を続けている。利用者や制作した作品を公民館に展示したり、八田ランタン祭りのランタン作り、認知症カフェへの参加等、地域交流の輪を広げている。	小、中学生の体験学習、ボランティアの受け入れや幼稚園児との交流等、外部から人が訪れる機会を設け、開かれたホームを目指す取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、情報交換をしながら地域の方との交流の場として認知症カフェに参加させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、参加人数も少なくなってきた地域の方やご家族に新たに声かけを行い充実したものとなるよう取り組んでいる。	運営推進会議は複数の家族や地域住民が参加し、2ヶ月毎に開催している。ホームの運営や利用者の状態、事故、職員の異動等を報告し、毎回、資料を用意して勉強会を行なっている。会議の中で出された意見や要望を検討し、出来る事からサービスの向上に反映させている。	参加委員の増員を図り、広くホームの取り組みを伝え、ホームへの協力、応援の輪を広げていく積極的な取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故状況報告やケアにおける困難事例など相談させて頂き協力関係を構築している。	管理者は、介護の疑問点、困難事例、事故等について行政に相談し、情報交換しながら連携を図っている。社協と協力して立ち上げた「地域にねざした福祉・医療を創る会運営会議」の活動を通じて認知症の情報発信を続け、地域密着型事業所として地域と協力出来る体制を整えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についての研修を積極的に行い、ケアに活かしている。	今年度より身体拘束の職員研修が年2回義務化され、勉強会の中で学ぶ機会を設けて意識づけを行っている。職員間で禁止行為の具体的な事例を挙げて検討し、言葉の抑制、玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフを高齢者虐待の研修に参加させ会議などで報告してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加を促し学習会を会議の場で開いている。後見人制度を必要とされる方には提案を行い、支援できる事務手続きにおいても要望に応じて支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の勉強会で学ぶ機会を設けている。現在、制度を活用している利用者の後見人が、運営推進会議へ参加し、積極的な関りを得て相談する中で、制度への理解を深めている。制度が必要とされている利用者には、相談しながら活用できる支援体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しての変更・改訂については、必ず書面にて内容をお渡しし、説明を行い、疑問点の確認作業を行った後に了承のサインを頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や通信紙にて情報提供いご本人の意向やご家族の意思を確認してご本人に反映できるようにしている。	職員は、家族の面会や運営推進会議の機会に家族と話し合い、利用者の近況や健康状態を報告し、家族の意見や要望、心配事等を聴き取っている。また、話し合う機会の少ない家族には、通信に細かく利用者の様子を書き込み、電話やメールで家族の意向を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やユニット会議において職員の意見・提案を確認していく時間を設けている。	非常勤の職員も含めた職員会議を開催して話し合いを行い、課題について検討している。毎日の申し送りや連絡ノート等で意見交換し、現場を熟知している職員の意見を受けて決定したことを実践し、定期的に見直しを図りながら利用者にとって、より良いケアを目指している。	人員不足の為、毎月の会議の開催が難しい状況であるが、職員意見箱の設置や個別の面談等、職員一人ひとりの意見や提案を聴く機会を設け、反映させていく取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の職場、家庭環境を考慮した勤務時間やシフト作成に努め快適な職場環境となるように努めている。キャリアアップ制度を活用して個人の次なる目標を明確に示し提案している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接での会話やその方が求める職場での働き方を明確に話して頂き会社が求める働き方とその方が求める働き方に差異が少なく済むように努めている。	創作活動やレクリエーション、食事作り等、職員が特技を活かしながら生き生きと働く事が出来るよう配慮している。管理者は、職員にこまめに声掛けてコミュニケーションを取りながら意見や要望を聴き取り、職員が自発的な働き方ができるよう、サポートしている。また、資格取得のためのバックアップ体制を整え、職員が意欲的に働ける職場を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	地域広報誌の回覧やユニット内での会議において定期的な意識向上に繋がる人権教育に取り組んでいる。	利用者の人権を守る介護サービスについて、職員会議や朝のミーティングの中で話し合い、ニュースや人権の資料を基に利用者の人権を尊重する介護サービスとはどういうケアであるのかについて、常に意識づけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・外部研修・学習会の参加を推進し、働きながら知識の向上ができるよう取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる提携施設との学習会参加や、社内、社外の研修参加を行い、情報交換できるように取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面談を重ねお人柄や趣味・趣向を確認して初期のケアに不安がないよう取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談でもご本人の様子や性格を確認してご家族からの要望を汲んだ初期のケアを実践し説明の中で不安な点がないかを確認して取り組んでいる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスの提案においてご本人やご家族の要望やこれからの見通しも含めた確かなサービス提供に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をしているご家族の一員としてご利用者もスタッフも共助の関係が築けるよう教育や指導に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に協力して頂けるところはご家族にも働きかけを行いご利用者との関わりの場を提案・提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交友関係やその人の馴染みの場所などを大切にしてその関係や思いを共感できるようスタッフ間でも情報共有している。	利用者の友人、知人、家族、親戚の面会を歓迎し、訪れやすい雰囲気を中心掛け、また来て頂けるように声掛けを行っている。また、手紙が届いたら返事を書いたり、電話をかける等、利用者がホーム入居で、馴染みの人との関係が途切れないように努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングなどの共有の場であることをスタッフ自身も認識してご利用者同士の架け橋となれよう職員にも指導教育している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も連絡を取り合い、相談に応じたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の人柄や今まで歩んでこられた人生の把握に努め、意思決定の一つの材料とできるようご利用者との関わりかた関係構築に努めている。	職員は日常生活の中で、利用者の思いや意向を聴き取り、家族と相談して、利用者の希望の実現に取り組んでいる。意向表出が難しい利用者も多くなってきたが、家族と相談しながら、長い入居年数の中で得た、利用者の情報を職員間で共有し、利用者本位の介護サービスの提供に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前担当ケアマネ、ご本人の様子や言動からその人の暮らしの把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録での情報共有を行い自力では不可能な部分を支援できるようご利用者の様子を観察するように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の様子や日々の暮らしのあり方を専門職も交え意見の交換に努め幅広い視野での介護計画作成に努めている。	利用者や家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、担当者会議の中で、職員間の気づき、意見を含めて話し合い、利用者本位の介護計画を短期3ヶ月、長期6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、家族と連絡を取りながら、主治医と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活のなかでの心身の変化に気を配り過去と現在の様子で生じる小さな変化を見逃さないように記録や担当者会議で共有に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフやご家族以外のサービス提供者にも目を向けより良い生活が送れるようさまざまな可能性を探求している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域やご近所との関係が良いものとなるよう地域資源の一つとして認識して頂けるよう施設内外の環境整備を行いつつご利用者との繋がりを模索している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要な時に必要な医療が受けられるよう、提携医療機関を確保し通院・往診にて支援している。	入居時に利用者や家族の希望を優先して主治医を決めているが、現在は全員、定期的な往診可能な協力医療機関(2ヶ所)を利用している。他科受診については、家族にお願いしているが、難しい時にはホーム職員が同行し、受診結果は小まめに家族に伝え、利用者の情報の共有を図っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内科医の往診と週に1回の訪問看護の往診の際にご利用者の気になる点を双方で確認してお客様の健康状態を把握している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にも密な面会を図り情報交換し早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医とご利用者のご家族との話し合いが円滑に進めることができるように関係構築に努めご本人やご家族の意向の変化にも対応できるようにしている。	ターミナルケアについて契約時にホームの方針について、利用者や家族に説明を行い、了承を得ている。利用者や家族の希望に出来るだけ添えるよう、関係者間で方針を共有し、連絡を密に取りながら、職員のチーム介護で看取りの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を検討して会議等で周知している。意識を持ち対応できるよう定期的な見直しや勉強会が必要である。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練を実施し、非常食・飲料水のなどの備蓄の確認を行い。避難手順を消防職員とともに確認講評を頂いている。地域自主防衛組織にも加入して協力体制整備構築を図れている。	防災訓練を年2回、昼夜を想定して実施し、1回は消防署の協力を得て、指導を受けている。2階の利用者については火元の場所によって、階段、ベランダ、踊り場に避難して煙を避けるよう消防署と話し合っている。また、近隣の事業所と協力関係を結び、いざという時の宿泊場所を確保し、災害時に備えて非常食、飲料水の備蓄も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳ある働きかけコミュニケーションに努めスタッフ間でも注意喚起を行い。新人スタッフにも指導・教育を行っている。	利用者のプライバシーを尊重した介護について、管理者から常に伝える事で、共通認識ができるように努めている。排泄や入浴時の声掛けや対応、日頃の言葉遣いについて、職員一人ひとりが意識しながら、利用者のプライドや羞恥心に配慮し介護サービスの提供に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できる声かけ、働きかけとなるようスタッフにも教育・指導を行いご利用者にも理解しやすい声かけや働きかけに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の優しい声かけや心遣いを感じ取りその人のペースや時間の流れで生活できるような支援に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容を定期的に行い個々の身だしなみを支援している。希望があればその他のサービスを取り入れることができるように努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一汁三菜を基本にして視覚や味覚で季節やその時を感じることで献立を考えている。調理や片付けなどもスタッフと共に行い支援している。	利用者の嗜好を聴き取り、職員が交代で作る一汁三菜を基本とした食事を提供している。ミキサー食、刻み食等、利用者一人ひとりの状態に合わせて提供し、時間をかけてそれぞれのペースで食事介助に取り組んでいる。利用者の力に応じて、包丁を使って調理を手伝ってもらったり、おやつ作りにも挑戦している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量や刻み食・ミキサー食など食事の形体を工夫して栄養摂取を考えている。習慣的な食べ物や飲み物などご利用者に添った提供に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き誘導や口腔ケア、義歯洗浄を行い清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者への声かけ、働きかけのタイミングを捉えトイレでの排泄を支援している。	利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、職員は利用者一人ひとりの生活習慣や排泄パターンを把握して、日中はトイレに座って腹圧をかけ、排泄を促している。また、その際に利用者の褥瘡早期発見等の気づきも多くなり、早期治療に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事や運動の機会を設けて自然に排泄出きるように支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の清潔保持、適度な疲労感やさっぱりとした感覚を感じて頂けるよう入浴剤の使用や個人のシャンプーや洗面用具を使用している。ご利用者の体調や入りたいタイミングなどを考慮して2日に一度の入浴に努めている。	入浴は利用者職員がゆっくり会話できる楽しい時間と捉え、一日おきの入浴を基本としているが、身体的に難しい方は週2回にしたり、毎日入浴をする方もいる等、利用者それぞれの希望や体調に配慮した柔軟な入浴支援を行っている。入浴を拒否される方には、時間帯を変えてみたり、職員が代わる等しながら、無理強いのない支援に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	湿度や室温の管理、ご利用者それぞれの寝方やこだわりを考慮して安心して休んで頂けるよう支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成してマニュアルに基づいて支援している。処方箋変更時には各職員確認を行いその後の体調の変化等にも注視している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の趣味・趣向に添った支援に努めており役割や達成感を感じて頂けるよう個々の水準を考慮した支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事を計画したり、戸外に出かけられるよう支援している。ご家族との外出や外泊などの機会や近隣への散歩を支援している。	天気の良い日を利用して、それぞれ歩ける距離に配慮しながら、散歩に出かけている。「近所の梅が咲いたよ」等、情報が入れば交代で見学に行く等、体調を見ながら、季節を感じる事の出来る外出の支援に取り組んでいる。また、家族の協力を得て、買い物や外食に出かけてもらい、利用者の生きがいに取り組んでいる。	法人の規定で職員の運転での外出が難しいため、遠方への外出やドライブ等の機会が限られてはいるが、その中でも、外気に触れる機会を設け、利用者の気分転換に繋げていく事を期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭管理はホーム側で行っている。お買物の際にはお金をお渡しし買物して頂いている。スタッフがご利用者に代わってに購入させて頂くこともある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ手紙のやりとりの支援をしている。投函の代行を支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や雰囲気を感じて頂けるよう壁画を作成したり温度計や湿度計を確認して居心地の良い空間となるよう支援している。	季節毎に利用者と職員が壁面を飾る作品作りに取り組み、季節ごとに雰囲気を変えて、楽しみながら生活出来る共用空間作りを心掛けている。また、折り紙を使った飾りやお雛様飾り、利用者の笑顔の写真を掲示して、温かな雰囲気の共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのご利用者にとって心地よい空間となるよう他の利用者にも配慮された空間となるよう支援しています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や以前から使用していたものを持ち込んで頂くこともあり使い慣れた見慣れたものに囲まれた空間となるよう支援している。	入居時に利用者や家族と話し合い、利用者が自宅で使っていた馴染みの家具や仏壇等を家族の協力で持ち込んでもらい、カーペットを敷いたり、絵や家族の写真等を飾り、その方らしく過ごせる居室になるよう配慮している。家具の配置は、利用者の動線を考慮して安全を確かめながら行っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の水準に寄り添った支援をしている。近位での見守りや付き添いが必要な場面を見極め安全に配慮した環境作りに努めている。		